

概況

1 取扱高

(1) 総取扱高

平成13年中における東京都中央卸売市場花き部の開場日数は、北足立市場302日、大田市場309日、板橋市場260日、葛西市場308日で、前年より北足立市場は2日減、大田市場は1日減、板橋市場は1日減、葛西市場は2日減となった。また、平成13年4月14日に世田谷市場花き部が開場し、世田谷市場の開場日数は、223日であった。

総取扱実績は、数量については部類によって単位が異なるため算出できないが、金額は906億9266万6千円を示した。この金額を前年と比較すると、14.0%（111億957万8千円）の増加となった。また、1日あたりの取扱高についてみると、3億1301万6千円で前年比18.5%（4891万7千円）増という実績を示した。

(2) 部別取扱高

- ①切花 総取扱数量は9億3526万1千本で前年比9.6%（8156万本）増、金額は548億4556万1千円で12.0%（58億8501万8千円）増であった。
- ②切葉 総取扱数量は7503万5千枚で前年比16.9%（1083万5千枚）増、金額は20億4066万3千円で18.0%（3億1181万2千円）増であった。
- ③切枝 総取扱数量は2834万1千束で前年比38.3%（785万3千束）増、金額は41億4007万6千円で9.3%（3億5165万4千円）増であった。
- ④鉢花 総取扱数量は3555万8千鉢で前年比20.4%（601万3千鉢）増、金額は100億6633万円で14.0%（12億3368万2千円）増であった。
- ⑤らん鉢 総取扱数量は234万5千鉢で前年比11.4%（24万鉢）増、金額は60億7981万1千円で18.9%（9億6493万5千円）増であった。
- ⑥観葉植物 総取扱数量は1278万7千鉢で前年比28.7%（284万8千鉢）増、金額は52億3048万8千円で24.6%（10億3351万3千円）増であった。
- ⑦観賞樹 総取扱数量は530万5千鉢で前年比28.4%（117万5千鉢）増、金額は24億4481万円で28.5%（5億4266万円）増であった。
- ⑧苗物 総取扱数量は382万8千箱で前年比4.6%（16万8千箱）増、金額は53億4366万2千円で14.9%（6億9301万1千円）増であった。
- ⑨その他花き 総取扱数量は79万8千箱で前年比8.6%（6万3千箱）増、金額は5億126万4千円で22.9%（9324万4千円）増であった。

部別平均価格の推移(過去3年)

(単位：円、%)

	切花	切葉	切枝	鉢花	らん鉢	観葉植物	観賞樹	苗物	その他
11年平均価格	61	27	183	320	2,431	419	484	1,372	663
12年平均価格	57	27	185	299	2,430	422	460	1,271	555
13年平均価格	59	27	146	283	2,592	409	461	1,396	628
13年対前年比	103.5	100.0	78.9	94.6	106.7	96.9	100.2	109.8	113.2

(3) 市場別取扱高

① 北足立市場

総取扱金額は110億1083万4千円で、前年比3.8%（4億3063万5千円）の減少となった。

部別に見ると、数量金額ともに前年を上回ったものは、観葉植物と苗物で、それぞれの数量は5.7%（4万8千鉢）、8.5%（2万5千箱）、金額は4.3%（1700万3千円）、6.5%（2733万1千円）の増加となった。数量のみ増加したのは切枝で、数量1.8%（9万束）増、金額は8.0%（4413万円）の減少となった。切花、切葉、鉢花、らん鉢、観賞樹、その他花きは前年を下回り、数量はそれぞれ5.4%（717万7千本）、4.5%（41万2千枝）、6.4%（30万5千鉢）、7.8%（2万7千鉢）、8.1%（4万鉢）、12.1%（4万6千箱）、金額は4.3%（3億2733万3千円）、3.9%（934万円）、4.3%（5331万8千円）、3.5%（2526万2千円）、2.8%（689万2千円）、19.3%（869万3千円）の減少となった。

② 大田市場

総取扱金額は506億1174万6千円で、前年比5.8%（27億5797万2千円）の増加となった。

部別に見ると、すべてにおいて前年を上回った。大幅に上回ったのは、切葉と観葉植物でそれぞれの数量は10.8%（386万2千枝）、14.5%（106万4千鉢）、金額は10.2%（1億687万1千円）、11.6%（3億6219万円）の増加であった。切花は数量3.9%（1855万5千本）、金額5.6%（15億5322万4千円）、切枝は数量5.5%（49万束）、金額1.0%（2230万6千円）、鉢花の数量は4.4%（75万鉢）、金額2.5%（1億3726万9千円）、らん鉢の数量は1.7%（2万2千鉢）、金額3.4%（1億1466万5千円）、観賞樹の数量は6.6%（19万3千鉢）、金額10.4%（1億3799万3千円）、苗物の数量は6.8%（17万8千箱）、金額9.4%（3億246万円）、その他花きの数量は7.7%（6千箱）、金額7.0%（2099万4千円）の増加であった。

③ 板橋市場

総取扱金額は107億3309万6千円で、前年比2.3%（2億4855万6千円）の減少となった。

部別に見ると、切枝の数量が前年を大きく上回り、52.9%（160万5千束）の増加となったが、金額は8.5%（5242万6千円）の減少となった。観賞樹と苗物は数量金額ともに前年を上回り、それぞれの数量は14.2%（1万7千鉢）、0.7%（1千箱）、金額は3.5%（264万6千円）、0.1%（23万7千円）の増加となった。らん鉢は数量が0.9%（1千鉢）増、金額は3.9%（1545万4千円）の減となった。金額のみ前年を上回ったのは、切葉、観葉植物、その他花きでそれぞれの数量は4.1%（45万9千枝）、4.1%（2万鉢）、12.7%（1千箱）の減、金額は1.8%（491万1千円）、0.3%（57万5千円）、4.7%（144万3千円）の増加となった。切花の数量は4.8%（734万5千本）、金額は2.0%（1億7190万2千円）、鉢花の数量は0.7%（1万2千鉢）、金額は3.2%（1858万7千円）の減少となった。

④ 葛西市場

総取扱金額は 86 億 8324 万 6 千円で、前年比 6.7 % (6 億 2294 万 6 千円) の減少となった。

部類別にみると、数量金額ともに前年を上回ったのは観葉植物、観賞樹、その他花きでそれぞれの数量は 16.2 % (20 万 6 千鉢)、4.8 % (2 万 9 千鉢)、31.0 % (8 万 4 千箱)、金額は 11.8 % (5614 万 5 千円)、0.8 % (198 万 7 千円)、24.9 % (756 万円) の増加で、特にその他花きは大幅な増加となった。数量のみ上回ったのは切葉と切枝でそれぞれ数量 3.0 % (24 万 2 千枚)、2.7 % (10 万 2 千束) の増、金額は 2.7 % (471 万 3 千円)、11.8 % (3878 万 8 千円) の減となった。苗物は数量が 44.6 % (27 万 2 千箱) と大きく落ち込んだが、金額は 1.4 % (1191 万 4 千円) の増加となった。切花、鉢花、らん鉢は前年を大きく下回り、それぞれ数量 9.1 % (875 万 2 千本)、10.6 % (64 万 3 千鉢)、8.6 % (2 万 5 千鉢)、金額は 10.0 % (4 億 9365 万 4 千円)、8.1 % (1 億 3123 万 3 千円)、5.1 % (3216 万 3 千円) の減少となった。

⑤ 世田谷市場

平成 13 年 4 月 14 日に開場し、12 月までの総取扱金額は 96 億 5374 万 4 千円であった。この金額は全市場取扱高の 10.6 % を占めた。

(4) 卸売業者別取扱高

① (株) 第一花き

総取扱金額は 83 億 9835 万 9 千円で、前年比 3.4 % (2 億 9920 万 6 千円) の減少となった。

部類別にみると、数量、金額ともに前年を上回ったのは観葉植物、苗物でそれぞれの数量は 6.1 % (2 万 4 千鉢)、13.5 % (3 万箱)、金額は 4.6 % (969 万 1 千円)、9.8 % (3146 万 6 千円) の増加であった。鉢花はほぼ前年並みで数量 0.1 % (3 千鉢) の増、金額は 2.0 % (1633 万 8 千円) の減となった。切花、切葉、切枝、らん鉢、観賞樹、その他花きは前年より取扱高を下げ、それぞれの数量は 4.9 % (493 万 4 千本)、5.4 % (36 万 8 千枚)、4.2 % (15 万 2 千束)、3.3 % (6 千鉢)、2.8 % (8 千鉢)、15.6 % (5 万 3 千箱)、金額は 4.0 % (2 億 4012 万円)、4.4 % (797 万 2 千円)、12.4 % (5371 万 6 千円)、1.6 % (744 万 2 千円)、4.5 % (703 万 3 千円)、20.3 % (774 万 1 千円) の減少となった。

② (株) 東京花き

総取扱金額は 26 億 1247 万 5 千円で、前年比 4.8 % (1 億 3143 万円) の減少となった。

部類別にみると、切枝と観葉植物は前年を上回り、それぞれの数量は 19.3 % (24 万 2 千束)、5.3 % (2 万 4 千鉢)、金額は 8.2 % (958 万 5 千円)、4.1 % (731 万 2 千円) の増加であった。観賞樹は数量 14.6 % (3 万 2 千鉢) の減、金額 0.2 % (14 万 1 千円) の増、その他花きは数量 15.3 % (7 千箱) の増、金額 13.7 % (95 万 2 千円) の減となった。切花、切葉、鉢花、らん鉢、苗物は数量金額ともに前年を下回り、それぞれ数量 7.1 % (224 万 3 千本)、1.9 % (4 万 4 千枚)、13.3 % (30 万 8 千鉢)、13.3 % (2 万 1 千鉢)、5.3 % (4 千箱)、金額は 5.8 % (8721 万 3 千円)、2.4 % (136 万 8 千円)、8.7 % (3698

万円)、7.0 % (1782 万円)、4.1 % (413 万 6 千円) の減少であった。

③ (株) 大田花き

総取扱金額は 264 億 3352 万 8 千円で、前年比 4.4 % (11 億 1332 万 3 千円) の増加となった。

部類別にみると、数量金額ともに前年を上回ったのは、切花、切葉、切枝、らん鉢、観葉植物、観賞樹、苗物で、それぞれの数量は 2.7 % (904 万 1 千本)、14.5 % (365 万 7 千枚)、7.9 % (44 万 2 千束)、8.0 % (2 万 3 千鉢)、11.0 % (10 万鉢)、14.3 % (3 万 9 千鉢)、6.7 % (2 万 3 千箱)、金額は 4.0 % (8 億 634 万 4 千円)、12.2 % (9680 万 4 千円)、3.2 % (4663 万 5 千円)、7.5 % (8340 万円)、15.8 % (4548 万 7 千円)、13.0 % (2029 万 8 千円)、8.2 % (3043 万 8 千円) の増加で、特に前年比が二桁増となったのは切葉、観葉植物、観賞樹であった。鉢花は数量 5.9 % (16 万 4 千鉢) の増、金額 1.6 % (1493 万 6 千円) の減であった。その他花きは数量 8.7 % (1 千箱)、金額 1.8 % (114 万 8 千円) の減少であった。

④ (株) フラワーオークションジャパン

総取扱金額は 241 億 7821 万 8 千円で、前年比 7.3 % (16 億 4464 万 8 千円) の増加となった。

部類別にみると、数量金額ともに前年を上回ったものが多く、切花、切葉、鉢花、観葉植物、観賞樹、苗物、その他花きのそれぞれの数量は 7.1 % (951 万 4 千本)、1.9 % (20 万 4 千枚)、4.1 % (58 万 7 千鉢)、15.0 % (96 万 5 千鉢)、5.8 % (15 万 4 千鉢)、6.9 % (15 万 5 千箱)、12.2 % (7 千箱)、金額は 9.7 % (7 億 4688 万円)、3.9 % (1006 万 7 千円)、3.4 % (1 億 5220 万 5 千円)、11.1 % (3 億 1670 万 2 千円)、10.0 % (1 億 1769 万 5 千円)、9.6 % (2 億 7202 万 2 千円)、9.3 % (2214 万 2 千円) の増加となった。切枝は数量 1.5 % (4 万 8 千束) 増、金額 2.9 % (2432 万 9 千円) 減となった。らん鉢は前年並みで数量 0.1 % (1 千鉢) の減、金額は 1.4 % (3126 万 5 千円) の増となった。

⑤ (株) 東日本板橋花き

平成 13 年 1 月 1 日に株式会社東日本花きと株式会社板橋花きが合併し、株式会社東日本板橋花きとなった。

総取扱金額は 107 億 3309 万 6 千円で、前年の 2 社の取扱高の合計と比較すると、2.3 % (2 億 4855 万 6 千円) の減少であった。

部類別にみると、切枝の数量が前年を大きく上回り、52.9 % (160 万 5 千束) の増加となったが、金額は 8.5 % (5242 万 6 千円) の減少となった。観賞樹と苗物は数量金額ともに前年を上回り、それぞれの数量は 14.2 % (1 万 7 千鉢)、0.7 % (1 千箱)、金額は 3.5 % (264 万 6 千円)、0.1 % (23 万 7 千円) の増加となった。らん鉢は数量が 0.9 % (1 千鉢) 増、金額は 3.9 % (1545 万 4 千円) の減となった。金額のみ前年を上回ったのは、切葉、観葉植物、その他花きでそれぞれの数量は 4.1 % (45 万 9 千枚)、4.1 % (2 万鉢)、12.7 % (1 千箱) の減、金額は 1.8 % (491 万 1 千円)、0.3 % (57 万 5 千円)、4.7 % (144 万 3 千円) の増加となった。切花の数量は 4.8 % (734 万 5 千本)、金額は 2.0 % (1 億 7190 万 2 千円)、鉢花の数量は 0.7 % (1 万 2 千鉢)、金額は 3.2 % (1858 万 7 千円) の減少となった。

⑥ 東京フラワーポート（株）

総取扱金額は 86 億 8324 万 6 千円で、前年の株式会社葛西花きと株式会社江戸川花きの 1 月から 3 月までの取扱高と合併後の東京フラワーポート株式会社の 4 月から 12 月までの取扱高と比較すると、6.7%（6 億 2294 万 6 千円）の減少となった。

部類別にみると、数量金額ともに前年を上回ったのは観葉植物、観賞樹、その他花きでそれぞれの数量は 16.2%（20 万 6 千鉢）、4.8%（2 万 9 千鉢）、31.0%（8 万 4 千箱）、金額は 11.8%（5614 万 5 千円）、0.8%（198 万 7 千円）、24.9%（756 万円）の増加で、特にその他花きは大幅な増加となった。数量のみ上回ったのは切葉と切枝でそれぞれ数量 3.0%（24 万 2 千枚）、2.7%（10 万 2 千束）の増、金額は 2.7%（471 万 3 千円）、11.8%（3878 万 8 千円）の減となった。苗物は数量が 44.6%（27 万 2 千箱）と大きく落ち込んだが、金額は 1.4%（1191 万 4 千円）の増加となった。切花、鉢花、らん鉢は前年を大きく下回り、それぞれ数量 9.1%（875 万 2 千本）、10.6%（64 万 3 千鉢）、8.6%（2 万 5 千鉢）、金額は 10.0%（4 億 9365 万 4 千円）、8.1%（1 億 3123 万 3 千円）、5.1%（3216 万 3 千円）の減少となった。

⑦ （株）世田谷花き

平成 13 年 4 月 14 日の世田谷市場花き部開場と同時に営業を開始し、12 月までの総取扱金額は 62 億 7718 万 6 千円であった。

⑧ （株）東京砧花き園芸市場

平成 13 年 4 月 14 日の世田谷市場花き部開場と同時に営業を開始し、12 月までの総取扱金額は 33 億 7655 万 8 千円であった。

2. 月 別 市 況

1月

「切花」

取扱数量は前月比 34.1 %減、前年比 11.1 %減であった。平均単価は前月と変わらず、前年比 12.3 %高であった。

入荷は、季節咲きの品目が曇天と低温の影響を受け、開花の遅れが目立ち減少した。

相場は、一般小売店の動きが鈍く、業務需要の引き合いだけが目立ち安値で推移した。

主要品目別では、輪菊が安定した入荷であったものの品薄感が強く、特に白輪菊は業務需要から高値相場の展開であった。バラは曇天のため咲き遅れ状態が続いた。下旬からプライダルフエアが始まり相場は上昇した。ストックはスタンダードを中心に安定した取引であった。ガーベラは業務需要が強く、下旬に予想より入荷量が減ったため相場は上昇した。スイトピーは品薄感が強かったが、単価は安定していた。

「鉢物」

取扱数量は前月比 38.9 %減、前年比 10.0 %減であった。平均単価は前月比 37.3 %安、前年比 5.0 %高であった。

入荷は、3年ぶりの大雪の影響もあり、昨年に比べ大幅な入荷減となった。

相場は、観葉植物が全体に好市況であった。苗物がパンジーを中心に単価を大幅に下げた。

主要品目別では、プリムラ類が全体的に入荷減であったものの、単価は冴えなかった。サイネリアは全体の入荷量は減ったが、単価は昨年並であった。ゼラニウムは入荷がやや少なめで4寸以下の単価が悪かった。カランコエは小鉢から6寸鉢まで規格を問わず軟弱な市況が続いた。エリカは4寸鉢の引き合いが強かった。全体的に相場は堅調であった。シンビジウム類は入荷減で特に高額商品の動きが悪かった。

2月

「切花」

取扱数量は前月比 18.9 %増、前年比 4.8 %増であった。平均単価は前月比 9.4 %安、前年比 7.9 %安であった。

入荷は、全体で前年を上回ったが、品目によりまちまちであった。

相場は、プライダル需要等で引き合いが強いものもあったが、単価は前年を下回った。

主要品目別では、輪菊が月を通して不安定な入荷が続いた。相場は業務需要の動きが弱く低調であった。バラは1月の降雪及び曇天の影響により入荷が減った。相場はプライダル需要が活発で安定していた。ストックは気温の上昇とともに中旬から増加傾向であった。相場はスタンダード系が下旬から下げた。ガーベラは少なめの入荷で相場も低調であった。スイトピーは月を通して安定した入荷で、相場も引き合いが強く安定していた。

「鉢物」

取扱数量は前月比 22.1 %増、前年比 9.8 %減であった。平均単価は前月比 3.8 %安、前年比 4.1 %高であった。

入荷は、寒波の影響で前半の入荷減が目立った。

相場は、苗物が軟調、観葉植物が堅調であった。

主要品目別では、ジュリアンが4寸以下の相場が低調であった。下旬になると入荷減と気温の上昇により相場は持ち直した。ポリアンタは苗が低調であった。サイネリアは大輪系の相場が特に冴えなかった。中小輪系は入荷・相場とも安定していた。カランコエは4寸以下の入荷が少なかった。6寸以上の相場はまずまずであった。デンドロビウム類も入荷が少なく弱保合であった。ファレノプシスは品質による価格差が大きく、単価も安値で推移した。

3月

「切花」

取扱数量は前月比 54.6 %増、前年比 5.0 %減であった。平均単価は前月比 1.7 %高、前年比 1.7 %高であった。

入荷は、全体で前年を下回った。月の後半は入荷量は少なかったが、下旬は遅れていた品目の入荷が増加した。

相場は、品薄感もあり堅調な相場であった。また、卒業式等のイベント需要も活発で洋花全般は昨年を上回った。全般的には天候に左右された供給量の要因もあり動きのある月だった。

主要品目別では、輪菊は品薄もあり相場が出ずらかったが、小菊は彼岸需要もあり安定していた。スイトピーは需要のバランスがとれ活発な取引であった。バラは低温・日照不足もあったが、卒業式・結婚式等のイベント需要で堅調な相場であった。

「鉢物」

取扱数量は前月比 56.9 %増、前年比 20.7 %増であった。平均単価は前月比 3.7 %高、前年比 3.4 %高であった。

入荷は、上旬は出荷が遅れていたが、中旬以降は開花が進み入荷が増えた。

相場は、中旬以降花苗を中心に市況が良くなった。それにつられるように鉢花も市況が上向いた。観葉植物は堅調に推移し、洋らんも安定していた。

主要品目別では、サイネリア・プリムラ類は卒業式等のイベントで市況が上向いた。ゼラニウムは遅れていた入荷が集中し、市況は比較的安定した。ディモルホセカは4寸以下が主流となり良品が少なく、市況は底値が続いた。ファレノプシスは昨年を上回る入荷で好市況が続いた。高品質の洋らん類で順調な取引が続き、最近がない市況であった。

4月

「切花」

取扱数量は前月比 23.0 %減、前年比 20.5 %増であった。平均単価は前月比 10.2 %安、前年比 6.0 %高であった。

入荷は、全体で前年を大きく上回ったが、草花類・球根など品薄感のものもあった。

相場は、月の前半は入学式・ブライダル需要等で好調であった。その後バラ・カーネーションを中心に低調な展開となったが、月末に端午の節句需要で季節の商材が動いた。

主要品目別では、輪菊の白が安定した入荷で、色菊を含め堅調な相場であった。バラは月を通して順調な入荷であったが、相場は中旬以降引合いが弱くなった。スターチス類は入荷が増えたが、価格は低迷した。ガーベラも入荷は潤沢であったが相場は弱保合であった。

「鉢物」

取扱数量は前月比 12.4 %増、前年比 14.8 %増であった。平均単価は前月と同価格で前年比は 3.4 %安であった。

入荷は、2週目あたりから増え、特に花苗の入荷増が目立った。

相場は、花苗は入荷増であったにもかかわらず、安定した取引が続いた。鉢花は六寸以上がやや厳しかったものの、観葉植物は全体に堅調であった。洋らん類は毎市ごとに不安定な動きであった。

主要品目別では、ニューギニアインパチェンスは前年より入荷が少なかった。カーネーションは一部の良品を除いて安価であった。ハイドランジアは六寸以上の高額商品は価格が低迷したが、五寸のガクアジサイ、ブルー系は安定していた。

5月

「切花」

取扱数量は前月比 7.6 %増、前年比 5.1 %増であった。平均単価は前月比 3.8 %高、前年比 1.9 %高であった。

入荷は、中旬まで暖地物が目立ち、母の日以降高冷地物がまとまり、若干遅れたが下旬から本格的な出荷となった。

相場は、母の日がゴールデンウィークから離れていたこともあり、安定した取引であったが、母の日以降乱調であった。

主要品目別では、白輪菊は入荷は増えたが需要が少なく、相場は低迷した。カーネーションは円安の影響で輸入量が減少した。バラは母の日需要もあり高値で推移した。スターチス類・ガーベラなどは母の日以降引合いが弱く、厳しい展開となった。

「鉢物」

取扱数量は前月比 38.4 %増、前年比 37.7 %増であった。平均単価は前月比 10.4 %高、前年比 5.0 %安であった。

入荷は、鉢花のカーネーションを始めとして、母の日関連の商材の入荷が多かった。観葉植物・洋らん・花苗に関しても入荷は順調であった。

相場は、例年母の日以降大幅に価格を下げるが、今年はそれほど下がらず、中旬以降も安定した取引が続いた。

主要品目別では、ペゴニア類は母の日商材としては取扱量が減ったが、単価は安定していた。しかし、他の品目の需要に押されてインパチェンスの需要が減った。カーネーションの入荷は昨年を大幅

に上回った。ファレノブシスは相変わらず人気があり、需要が多かった。

6月

「切花」

取扱数量は前月比 11.1 %減、前年比 16.7 %増であった。平均単価は前月比 3.6 %高、前年比 7.5 %高であった。

入荷は、各品種とも例年より入れ替えがスムーズに行われた。潤沢感もあり、引き合いが強かった。また、下旬から晴天が続き、入荷が早まった。

相場は、比較的安定していて、例年みられる下落はなかった。

主要品目別では、白輪菊が軟調であった。バラは父の日需要で黄色系の動きがあったが、全般的には軟調、ゆり類はブライダル需要は少なかったものの、高品質のものが多く安定した取引であった。

「鉢物」

取扱数量は前月比 38.7 %減、前年比 31.8 %増であった。平均単価は前月比 4.8 %安、前年比 1.0 %安であった。

入荷は、ハイビスカス・ペチュニアの入荷増があったが、鉢物全体では微増にとどまった。洋らん類は全体的に入荷減であった。

相場は、6月中旬までは順調であったが、梅雨入りと同時に価格を下げた。

主要品目別では、ペゴニア類は入荷が少なく高単価であった。ゼラニウムも品質の割に高単価であった。日々草は全体的に品質も揃い、入荷は順調であった。ハイビスカスも良品が多く全ての面で好調であった。

7月

「切花」

取扱数量は前月比 8.9 %増、前年比 11.1 %増であった。平均単価は前月比 5.3 %安、前年比 10.2 %高であった。

入荷は、主品目の菊類と球根類が少なく、天候と作柄が入荷量に大きな影響を与えた。

相場は、菊類が盆需要を境に上げはじめ昨年を上回ったが、暑さに弱い品目は弱含みであった。

主要品目別では、小菊の入荷が4月の遅霜の影響で大幅に減少した。異常な高温が続き作柄が悪く、入荷減となる品目が多い中でひまわりは、品種がバラエティーに富み、主体のオレンジを中心に安定した取引が続いた。

「鉢物」

取扱数量は前月比 30.9 %減、前年比 20.4 %増であった。平均単価は前月比 6.5 %高、前年比 2.9 %安であった。

入荷は、猛暑の影響で鉢花・花苗の入荷が前年の2割減であったが、観葉植物は小鉢を中心に順調な入荷で前年を1割以上上回った。

相場は、鉢花1割、ハイビスカス・花苗が2割前年を下回った。観葉植物は中鉢類が好市況であった。

主要品目別では、ペゴニア類は暑さに弱く花持ちが悪いので、例年同様動きが鈍かった。ハイビスカスは潤沢に入荷し、特にインドハイビスカスの人気が高かった。ファレノブシスは入荷が減ったが、ギフト等で需要が高かった。

8月

「切花」

取扱数量は前月比 3.2 % 増、前年比 20.0 % 増であった。平均単価は前月比 7.4 % 高、前年比 5.5 % 高であった。

入荷は、全体では昨年を上回っているものの、輪菊及び球根類の入荷が昨年を下回った。7月の天候不順が響き、下旬は少なめとなった。

相場は、昨年を上回り、品質も安定し、盆需要で花草類の引き合い強く堅調であった。

主要品目別では、白輪菊は昨年を上回る入荷であったが、色物は入荷が減少した。小菊は雨が少なく、病虫害の被害が多発した。全体的には安定した入荷、取引であった。

「鉢物」

取扱数量は前月比 20.0 % 減、前年比 20.0 % 増であった。平均単価は前月比 9.3 % 安、前年比 3.4 % 安であった。

入荷は、鉢花が昨年より少なめで、全体では7月の猛暑の影響で8月前半の入荷が少なかった。洋ラン類は昨年並みであったが、コチョウランの入荷が少なかった。

相場は、7月の猛暑の影響で8月前半の市況は良くなかったが、お盆明けは気候が安定し好市況に転じた。特に花苗の動きが活発であった。

主要品目別では、ぼさぎくが大幅な入荷減で単価も安かった。りんどうは岩手おとめが順調で、3.5寸ポットの引き合いが強かった。

9月

「切花」

取扱数量は前月比 9.2 % 増、前年比 7.9 % 増であった。平均単価は前月比 5.2 % 高、前年比 3.4 % 高であった。

入荷は、8月の天候不順で草花の供給に影響がでた。逆に彼岸需要の菊は、全量はその時期に集中し潤沢であった。また、台風被害で千葉・茨城の入荷が減った。

相場は、上旬からの安値を引きずり、相場の上昇に至らなかった。中旬以降洋ラン類が品薄高であった。

主要品目別では、輪菊・小菊などの菊類は需要期に減少したが、トータルでは数量・価格とも前年並みであった。洋ラン類は高温の影響もなく、プライダル需要で堅調であった。

「鉢物」

取扱数量は前月比 64.5 % 増、前年比 35.7 % 増であった。平均単価は前月比 4.8 % 安、前年比 6.4 % 安であった。

入荷は、猛暑の影響でぼさぎく等はこぶりであったが、菊類の入荷が始まり商品が秋らしくなった。上旬から中旬にかけては敬老の日向けの商材が潤沢であった。

相場は、中旬までは保合で推移したが、鉢花や観葉植物は軟弱な市況が続いた。全体的に弱含みであったが、洋ラン類の相場は持ち直した。

主要品目別では、菊類のスプレーマムの品種が増え、ポットマムが減少した。カランコエは生産規模が縮小傾向であったが、価格は安定していた。

10月

「切花」

取扱数量は前月比 11.3 % 減、前年比 21.8 % 増であった。平均単価は前月比 3.3 % 安、前年比 3.5 % 高であった。

入荷は、8月から9月の涼しさから例年より各品種の生育が良く、安定した入荷が続いた。10月を迎えて小売の需要が鈍ったが、業務需要が目立つようになった。

相場は、プライダル需要はあったものの消費地の天候が悪く、また小売の動きもなく全体相場は弱含みであった。また、菊は白の品種変更と作型変更、昨年の暴落を教訓とした出荷調整を行っていた。

主要品目別では、菊類やオリエンタル・バラなどの主品種が低調な取引展開であった。

「鉢物」

取扱数量は前月比 11.7 % 増、前年比 33.1 % 増であった。平均単価は前月比 3.2 % 安、前年比 10.7 % 安であった。

入荷は、概ね順調であったが、鉢花と花苗の入荷量が少なかった。

相場は、軟弱な相場が続き、天候の悪さだけでは説明できない市況が続いた。

主要品目別では、菊類が昨年より大幅な入荷減で、単価も弱く菊離れを感じた。5寸以上のカランコエは入荷薄であったが、ポット苗の市況は良かった。シャコバサボテンは生産量が減ったため、入荷量は少なかったものの価格は昨年並みであった。ポトスは入荷量が1割ほど減少した。

11月

「切花」

取扱数量は前月比 13.4 % 減、前年比 22.6 % 増であった。平均単価は前月比 13.6 % 高、前年比 1.5 % 安であった。

入荷は、前月までは順調に入荷があったが、11月を迎えて全国的に気温が低下し、入荷数量が減少した。今年は寒冷地が冷夏で宴会用草花が順調に生育した。

相場は、宴会需要先導型の相場形成で、一般需要は鈍化していたが品薄感が強く中値安定で推移した。

主要品目別では、菊類は昨年の暴落もなく、堅調な相場であった。バラも入荷量が減ったが、プライダル需要に支えられ、堅調相場で推移した。洋ラン類は入荷増で価格は低迷した。

「鉢物」

取扱数量は前月比 9.8 % 増、前年比 32.3 % 増であった。平均単価は前月比 28.0 % 高、前年比 4.7 % 安であった。

入荷は、秋物から冬物商材への転換時期であったが、例年になく順調な入荷であった。

相場は、時期的な背景もあり低迷した。

主要品目別では、シクラメンは入荷の増加に伴い値を下げた。ミニシクラメンは昨年に比べ大幅な入荷増、単価は1割安であった。プリムラ類のポリアンタは入荷が少なく、価格の乱高下が目立った。ポインセチアは近年にない弱い市況であった。特に6寸鉢が良くなかった。ファレノプシスは大輪が安定していたが、他は軟弱な市況であった。

12月

「切花」

取扱数量は前月比 31.0 %増、前年比 10.1 %増であった。平均単価は前月比 9.0 %安、前年比 4.7 %安であった。

入荷は、昨年を上回る順調な入荷であったが、球根類の出荷の遅れと千葉方面の露地物が朝夕の冷え込みで開花が遅れ、少なめであった。

相場は、消費の低迷で様子見の買い取りが多く、一月を通し例年でない低市況であった。潤沢な品物や季節感の薄い品物は軟調相場であった。

主要品目別では、バラ・ガーベラ等のクリスマス需要の商材で赤系の物に人気があった。チューリップは悪天候で入荷が少なく、例年の7割程度であった。

「鉢物」

取扱数量は前月比 2.9 %増、前年比 28.1 %増であった。平均単価は前月比 22.3 %高、前年比 8.3 %安であった。

入荷は、苗物を除くと安定した入荷であった。特に12月のメイン商材の入荷が順調であった。

相場は、やや弱めの市況であった。入荷が順調であった分、価格がでなかった。また、正月用商材も上位等級の動きが鈍かった。

主要品目別では、シクラメンが出来が良かったにもかかわらず、ギフト等の動きが鈍く前年より1~2割安かった。プリムラ類では入荷は順調であったが、単価は弱保合であった。ポインセチアは1週目は期待込みで値がついたが、以降値を下げた。